

## 半木の道 金閣寺垣について

半木の道「しだれ桜」の外周に設置されている金閣寺垣は、金閣寺のものを原形とした竹垣形式の一種であり、丈の低い四ツ目垣風のつくりで、上部を割竹で押さえた形状となっています。  
「しだれ桜」や竹製の桜棚と相まって、特別な景観を造り出しています。



北山大橋～北大路大橋間の金閣寺垣総延長は、L=1, 150mとなっています。

部分的な補修や倒れかけた支柱に支えの杭を設置するなどの補修を実施していますが、金閣寺垣の構造が複雑なため、補修では完全な復元は困難であり、金閣寺垣としての形状を維持するには、撤去・新設を実施する必要があります。

生竹で作られていることから、5～7年程度で作り替えているのが現状であり、最近では椅子代わりに使用されることも散見されることから、作り替えのペースが早くなっています。金閣寺垣の新設費用には、多額の維持管理費が必要となっています。



金閣寺垣の新設に替えて、比較的簡易な竹柵(案1)や「焼き杭」と「棕櫚のロープ」を使ったロープ柵(案2)に順次取り替えていくことも今後の検討課題と考えております。

#### 案1 北山大橋東詰の竹柵



#### 案2 植物園のけやき並木のロープ柵



今後、試験的に河裏(石畳)側の破損箇所を、案1にて修繕をしますので仕上がりを見てご意見を頂きたいと思っております。